

九州生乳販連会報



TOPICS

第23回通常総会を開催	1
令和3年度事業報告	2
令和3年度生乳品質共励会について	9
酪農情勢報告	11
加工原料乳生産者経営安定対策事業に係るお知らせ	12
令和4年度生乳取引交渉について	12
令和4年度販売状況について	13
令和4年度会員別生乳受託販売数量	14
令和4年度月別受託生乳検査成績	14
令和3年度乳用牛繁殖改善事業の実績について	14
酪農理解醸成・牛乳消費拡大対策事業 お知らせとご報告	15
牛乳・バター利用拡大推進運動について	16
酪農教育ファーム認証牧場・ファシリテーター新規募集中!	16

第23回通常総会を開催

去る7月27日、福岡市内のホテルにて第23回通常総会を開催しました。

3年ぶりに行動制限のない中での通常総会ではありましたが、新型コロナウイルス感染症対応のため、来賓については九州域内の関係者に限定した形での開催となりました。

中村隆馬代表理事会長の挨拶後、来賓を代表して九州農政局生産部畜産課の伊藤課長にご祝辞を賜りました。

その後、議長に宮崎県経済酪農業協同組合連合会の平島代表理事副会長を選任し、議事に入りました。

令和4年度の事業計画につきましては、去る3月29日開催の臨時総会において承認を得て

いますので、本総会においては下記の2議案が上程され、全て原案どおり承認されました。

第1号議案

令和3年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、注記表、附属明細書及び剰余金処分案の承認について

第2号議案

定款の一部改正(案)について

最後に、清末健一代表理事副会長が閉会の挨拶を述べ終了しました。

(第1号議案の概要については次葉以降に掲載)



中村会長



九州農政局 伊藤課長



平島議長

令和3年度 事業報告

一般概況(抜粋)

酪農においては「畜産経営の安定に関する法律」が一部改正施行され、九州においても生産した生乳の一部を系統外へ販売する事例が増えてきています。一方、長引くコロナ禍でインバウンドや業務用の牛乳乳製品需要が落ち込んだことにより生乳需給が緩和し、脱脂粉乳・バターの在庫が積み増しになり過去最高の水準となっています。年末年始や年度末には処理不可能乳の発生が懸念される状況となりましたが、酪農乳業界を挙げて生乳生産の抑制、加工処理の最大化に取り組んだ事や消費応援により処理不可能乳の発生はありませんでした。このような中、生乳生産コストは世界的な燃料・原材料価格等の高騰により上昇し、酪農家は非常に厳しい経営環境にあります。

3年度の乳価については、学校給食用牛乳向けの取引価格が1円値上げとなり、その他用途は据え置きとなりました。用途別販売は度重なる新型コロナ感染拡大の影響を大きく受け、需給が緩和して脱粉・バター向けが増加したことにより、販売乳価は前年度と比較して0.189円/kg下回りました。

生乳生産量については603,724t(計画比101.0%、前年比100.7%)と計画・前年ともに上回りました。九州においても生乳増産への取り組みにより生産基盤の強化には一定の効果が表れました。酪農戸数については減少の傾向は変わらず、昨年より41戸が離農廃業となりました。

1. 生乳受託販売数量

「3年間は生乳の増産・維持」とする中期生乳需給安定化対策の初年度として、令和3年度生乳需給安定化対策実施要領に基づき、各会員を通じて生産者ごとの計画数量を取りまとめた生乳委託計画の数量600,670,328kg(前年比100.2%)をそのまま生乳出荷目標数量としました。

生乳受託販売数量は、7月は瞬間的な猛暑の影響により前年を下回ったものの、8月には一転して長雨により気温の低い日が続いたことで暑熱ダメージは抑えられ、その後1月までは前年を上回りました。ただし、コロナ禍による脱脂粉乳を中心とした乳製品の過剰在庫問題が顕在化したことや処理不可能乳の発生が懸念されたため、年末年始・年度末を中心に生産抑制に取り組んだ結果、1月以降で伸びが鈍化し、2月、3月には前年を下回りました。

これらの結果、上期の実績数量は301,476,285kg(計

画比101.3%、前年比101.3%)、下期の実績数量は302,247,391kg(計画比100.6%、前年比100.2%)となり、年度計では603,723,676kg(計画比101.0%、前年比100.7%)と計画・前年の数量をともに上回る実績となりました。(表1)

表1 月別生乳受託販売数量実績 (単位:計画t、実績kg、%)

月	事業計画	実績	計画比	前年比
4	52,860	53,924,895	102.0	102.0
5	54,230	54,516,166	100.5	100.5
6	50,070	50,180,338	100.2	100.2
7	49,070	48,388,954	98.6	98.6
8	45,660	47,810,520	104.7	104.7
9	45,790	46,655,412	101.9	101.9
上期計	297,680	301,476,285	101.3	101.3
10	48,330	48,899,262	101.2	101.2
11	47,490	48,315,613	101.7	101.7
12	50,300	50,734,611	100.9	100.9
1	51,500	51,746,999	100.5	100.5
2	48,000	47,934,290	99.9	98.7
3	54,700	54,616,616	99.8	98.5
下期計	300,320	302,247,391	100.6	100.2
年度計	598,000	603,723,676	101.0	100.7

2. 生乳販売

引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けるなか、飲用牛乳等向けは、前年に見られた巣籠り需要が一段落したことで低調な状況が続きましたが、乳業各社、全国連との連携により域外向けの販売を増やしたことで425,506t(計画比100.9%、前年比100.4%)と増加しました。はつ醇乳等向けは、低調であった前年から回復することなく84,381t(計画比95.5%、前年比97.7%)と減少しました。脱脂粉乳・バター等向けについては、感染拡大を防ぐための行動制限によってインバウンド需要や業務用需要の低調な推移が続いたことや夏場の悪天候が影響し64,254t(計画比111.8%、前年比106.3%)と増加しました。クリーム等向けは、生クリーム使用量の多いスイーツ向けの需要が伸びたことで28,446t(計画比96.4%、前年比103.5%)と大きく減少していた前年に比べて回復が見られました。チーズ向けも同様に、業務用需要が大きく減少していた前年と比べれば1,136t(計

表2-1 用途別販売実績

(単位:計画t、実績kg、%)

用 途	計 画	実 績	計画比	前年比	構成比
域内飲用	290,750	292,801,664.3	100.7	98.9	48.5
学 給	40,130	40,254,723.7	100.3	103.9	6.7
域外飲用	90,630	92,450,012.2	102.0	103.6	15.3
飲用牛乳等向け計	421,510	425,506,400.2	100.9	100.4	70.5
はっ酵乳等向け	88,400	84,380,887.8	95.5	97.7	14.0
脱脂粉乳・バター等向け	57,450	64,253,896.0	111.8	106.3	10.6
ク リ ー ム 等 向 け	29,500	28,446,466.0	96.4	103.5	4.7
チ ー ズ 向 け	1,140	1,136,026.0	99.7	105.0	0.2
計	598,000	603,723,676.0	101.0	100.7	100.0

画比99.7%、前年比105.0%)と回復が見られました。
(表2-1)

脱脂粉乳・バター等向け、クリーム等向け、チーズ向けを合わせた加工原料乳の数量から公共分乳量を除いた認定数量は92,936t(交付対象数量88,946tの104.5%)となりました。

販売先を地域別に見ると、九州域内499,348t(前年比100.0%)、中国地区11,114t(前年比105.8%)、四国地区34t(前年実績なし)、関西その他地区93,228t(前年比104.2%)の実績となりました。(表2-2)

表2-2 地域別販売実績

(単位:kg、%)

地域別	実 績	前年比	構成比
九 州	499,347,513	100.0	82.7
中 国	11,113,998	105.8	1.8
四 国	34,010	—	0.0
関西その他	93,228,155	104.2	15.4
計	603,723,676	100.7	100.0

3. 生乳販売価格・販売費用

生乳販売価格は、学乳向けの改定(+1円)が実施され、その他用途は据え置きとなりました。

用途別の販売実績は前述の2のとおりとなり、この結果、プール対象の生乳代金は前年△0.245円/kg、成分加算

金を加えて前年△0.180円/kgとなりました。

販売費用については、域外向けの販売が増加したことにより送乳経費の総額が前年+0.007円/kgとなり、ここから需要者負担額(乳業者からの運賃補填、前年+0.024円/kg)を差し引いた送乳経費の生産者負担額は前年△0.016円/kgとなりました。一方、一部の路線で価格改定を実施した集乳経費は、前年+0.017円/kgとなりました。また、CS冷却費は保守修繕費の増加やCS廃止費用の計上により、前年+0.011円/kgとなりました。これらの結果、販売費用の総額は前年+0.010円/kgとなりました。

生乳販売代金(プール対象生乳代金+成分加算金)から販売費用を差し引いた支払乳価は、前年△0.189円/kgとなりました。(表3)

4. 乳代精算

生乳販売代金については、各月に販売して得たプール対象生乳代金に季節別乳価実施要領で定める各月の季節別乳価調整率(92~114%)を乗じた季節別調整後金額を、会員ごとの乳量であん分して精算しました。

成分加算金については、乳業者からの受取成分加算金を各会員の成分基準値上回り量に応じてあん分しました。

販売費用については、販売手数料(生乳受託販売代金(基本乳代+成分加算金)の0.3%)・生乳検査料(販売数量に0.12円/kgを乗じた金額)・送乳経費(実費)・CS

表3 販売乳価及び費用の比較

※千円単位での四捨五入のため計が一致しない場合がある。

年 度		令和3年度	令和2年度	差
乳 量		603,724 t	599,378 t	4,346 t
プール対象 生乳代金	金額	66,157,261千円	65,827,627千円	329,633千円
	単価	109.582円	109.827円	△0.245円
成 分 加算金	金額	1,139,432千円	1,092,128千円	47,304千円
	単価	1.887円	1.822円	0.065円
生乳代金計	金額	67,296,693千円	66,919,756千円	376,937千円
	単価	111.469円	111.649円	△0.180円
販 売 費 用	金額	4,648,346千円	4,608,794千円	39,551千円
	単価	7.699円	7.689円	0.010円
支 払 乳 価	金額	62,648,347千円	62,310,961千円	337,386千円
	単価	103.770円	103.959円	△0.189円

冷却費(実費)・集乳経費(実費)をそれぞれ会員ごとの乳量であん分して乳代から控除しました。

月ごとの調整により発生した季節別調整額の残高と借越しの金利負担額は6～11月の乳量であん分し、3月分生乳代金と同時に精算しました。(表4)

5. 加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金

令和3年度畜産物価格において、加工原料乳生産者補給金および集送乳調整金の総交付対象数量は前年度と同様の345万トン、補給金単価は8.26円/kg(前年△0.05円/kg)、集送乳調整金単価は2.59円/kg(前年+0.05円/kg)、合計10.85円/kg(前年±0円/kg)となりました。

本会においては、令和3年度の年間販売計画に記載する特定乳製品向け(脱脂粉乳・バター等向け、クリーム等向け、チーズ向けの合計)88,946.1トンが交付対象数量として承認されました。また、認定数量が交付対象数量を超過したことを受けて年度終了後に交付対象数量が変更され、最終的に89,997.5トンが交付対象数量として確定しました。

令和3年度加工原料乳認定数量は92,935,714kgと交付対象数量を2,938,214 kg超過したことにより、この超過した認定数量に対して生産者補給交付金・集送乳調整金は交付されないこととなりました。

これらを踏まえ、各生産者に対しては生産者補給交付金743,379,348円、集送乳調整金233,093,523円、総額976,472,871円を四半期ごとに(ただし、第2四半期分は第4四半期と同時に支払い。)会員を通じて支払いました。なお、受託乳量1kgあたりの単価は、生産者補給金が1.240円/kg(前年+0.010円/kg)、集送乳調整金が0.389円/kg(前年+0.013円/kg)となりました。

表5 加工原料乳生産者補給金および集送乳調整金について

項 目	数 量
交付対象数量	89,997,500kg
認定数量	92,935,714kg
補給金交付数量	89,997,500kg

項 目	単 価	金 額
生産者補給金	8.26円/kg	743,379,348円
集送乳調整金	2.59円/kg	233,093,523円
合計	10.85円/kg	976,472,871円

6. 生乳増産奨励事業

(1) 増産奨励金交付事業

生産者の増産意欲を喚起し、生乳生産基盤の維持・強化を図ることを目的として、令和3年度の生乳受託販売数量の年間合計および需要期合計がともに前年を上回り、かつ、生乳品質共励会の開催要領に基づく優良賞の基準を満たした生産者に奨励金を交付する事業の実施を予定していました。しかし、令和3年度に入り、新型コロナウイルス感染症の影響により生乳需給環境が急激に悪化したことを受けて、実施を見送りました。

(2) 乳用牛繁殖改善事業 事業総額1,424千円

近年の生乳生産量減少の一因となっている経産牛の受胎率低下や分娩間隔の長期化に対し、早期の妊娠判定確認の選択肢となるPAGs(乳汁中妊娠関連糖蛋白質)検査を活用する生産者へ助成する事業を実施しました(1検体あたりの助成額は6～11月を300円、それ以外の月は200円。)

本会検査所および会員施設にて実施したPAGs検査を対象とし、年間の補助対象検体数は5,893本(前年比105.7%)となりました。

表4 生乳代金の精算

※千円単位での四捨五入のため計が一致しない場合がある。

月	プール対象 生乳代金 (千円)	季節別 調整率 (%)	季節別 調整後金額 (千円)	成分加算金 (千円)	販売費用 (千円)	支払乳代 (千円)	季節別 調整額 (千円)	累計季節別 調整額 (千円)
4	5,774,539	94	5,428,067	98,137	412,256	5,113,948	346,472	346,472
5	5,981,030	94	5,622,168	94,689	420,073	5,296,784	358,862	705,334
6	5,655,412	100	5,655,412	79,385	394,998	5,339,798	0	705,334
7	5,387,696	110	5,926,465	69,719	373,914	5,622,270	△538,770	166,565
8	5,225,570	111	5,800,383	68,912	366,579	5,502,717	△574,813	△408,248
9	5,285,414	114	6,025,372	71,387	355,579	5,741,180	△739,958	△1,148,206
10	5,496,687	105	5,771,521	86,938	367,231	5,491,228	△274,834	△1,423,040
11	5,325,081	100	5,325,081	104,038	373,591	5,055,528	0	△1,423,040
12	5,400,952	93	5,022,886	119,093	388,272	4,753,706	378,067	△1,044,974
1	5,590,850	92	5,143,582	122,249	395,349	4,870,482	447,268	△597,706
2	5,250,951	92	4,830,875	111,899	383,281	4,559,493	420,076	△177,630
3	5,783,077	92	5,320,431	112,985	417,221	5,016,196	462,646	285,017
計	66,157,261		65,872,244	1,139,432	4,648,346	62,363,330	285,017	

7. 年末年始処理不可能乳・廃棄乳発生回避への対応について

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて生乳需給が緩和し、年末年始に全国で相当の処理不可能乳の発生が危惧された中、酪農乳業界全体で発生回避の取り組みが呼びかけられたことを受け、以下のとおり取り組みました。

(1) 令和3年度年末年始生産基盤堅持緊急対策事業

事業総額21,773千円

生産者が自らの経営や乳牛にダメージを与えないことを前提に行う生乳出荷抑制のための取り組みを支援することとし、(一社)Jミルクが実施する緊急酪農生産基盤堅持対策事業を活用して、年末年始期間中の基準乳量(12月中旬の乳量×101.3%)を下回った乳量に対して50円/kgの助成を行いました。

結果として、1,162戸のうち631戸が抑制を達成し435tが対象となりました。

(2) LL牛乳等の処理数量拡大 事業総額2,161千円

年末年始期間中にLL牛乳等の処理数量を拡大した乳業者に対し助成を行うこととし、令和3年度年末年始の処理量が令和2年度年末年始の処理数量を上回った数量に対し、掛かり増し経費相当額として8円/kgの助成を行いました。

結果として2乳業者が取り組み、270tが対象となりました。

8. 酪農理解醸成及び牛乳消費拡大対策事業

(1) 会員実施分 事業総額39,666千円

各会員が実施した酪農理解醸成活動、牛乳消費拡大運動への助成を行いました。また、酪農が生活者にとってより身近なものとなるよう、「ファン獲得運動」としてFacebookを活用し、各会員から報告された地域のイベントや生産現場の記事や写真を生活者へ向けて発信しました。

(2) 本会実施分 事業総額46,035千円

新型コロナウイルスの感染拡大が繰り返される中、インターネット等の活用を含め確実に実施できる方法を中心に展開しました。

新聞を使った酪農理解醸成活動としては、10月23日と12月4日に「一日、一日。」をメインコピーに広告を掲出しました。誰もがコロナ禍で思い通りにないことが続く中、九州の酪農家が1日1日牛と丁寧に向き合い、安心・安全な生乳生産のため努力している姿を生活者に伝えました。また、3月21、26日には、年末年始の消費応援への感謝を伝え、春休み期の牛乳消費への協力をお願いする新聞広告「ありがとうございます」

牛乳より。」を掲出しました。

6月の「牛乳月間」では、Instagramを活用したプレゼントキャンペーン「牛乳ヒゲチャレンジ第2弾」を実施しました。

乳和食料理の普及を図る施策としては、熊本県と鹿児島県の食生活改善推進協議会の会員を対象に、コロナ禍でも自宅や少人数で乳和食が学べる「チャレンジ乳和食」を実施しました。

不需要期の牛乳消費拡大の施策としては、11～2月にかけて牛乳・バター利用拡大推進運動を実施し、酪農家自らが牛乳・乳製品の消費拡大運動を率先して行い生活者に向けて広く消費拡大の必要性和協力を呼びかけました。また3月26日には、日頃からの牛乳愛飲と年末年始の消費応援への感謝を伝え、春休み期の牛乳消費への協力をお願いするため、福岡市天神のライオン広場にて「モ～1杯!牛乳飲んでくだ祭」を開催しました。

(3) 牛乳定着化事業

事業総額19,093千円(中央酪農会議助成金)

(一社)中央酪農会議『MILK JAPAN』活動を実施しました。今年度はインターネット・SNSを活用し、「#あなたとミルクの一日一日キャンペーン」と「ホットプレートで九州うまか飯キャンペーン」を実施しました。

また、MILK JAPANの認知率アップと「九州産」牛乳をPRし、牛乳購買の促進を図るために、1～2月にはイオン九州・系列店の各店舗で「ミルクde応援キャンペーン2022」を、2～3月には九州CGC系列店舗で「牛乳フェス in 九州」を実施しました。

(4) 酪農教育ファーム事業 事業総額1,140千円

(内、中央酪農会議助成金1,140千円、自己負担0円)

生活者や教育関係者を対象とする酪農体験を通して酪農教育ファームは新型コロナ感染防止を図るため、昨年度に引き続き活動を自粛しました。

一方では、継続して活動ができるよう(一社)中央酪農会議主催で酪農体験におけるファシリテーターの資質向上や防疫体制への意識向上を目的としたスキルアップ研修会がWEBで開催されました。九州では13名が受講し、ワークショップなどを通じて酪農教育ファームファシリテーターの役割や重要性を再確認し、今後の酪農教育ファーム活動の課題や解決方法などを考える機会となりました。

新規認証については、認証牧場1戸とファシリテーター3名が新規認証を取得しました。認証牧場の取得のための現地審査は会員の協力の下、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で牧場の安全性や衛生面の確認を行いました。

年度末の認証牧場とファシリテーター数は表6-1、事業費の内訳は6-2のとおりです。

表6-1 (単位 認証牧場:戸、ファシリテーター:人)

	認証牧場	ファシリテーター
福岡	4	10
佐賀	3	3
長崎	1	1
熊本	7	12
大分	5	14
宮崎	8	13
鹿児島	4	5
計	32	58

表6-2 単位(千円)

事業	内 訳		実績
	委託費	自己負担	
新規認証牧場現地審査	0	0	0
事業推進費	1,140	0	1,140
合計	1,140	0	1,140

9. 生乳検査事業

(1) 生乳検査成績

各検査項目(脂肪分率・蛋白質率・乳糖分率・無脂乳固形分率・氷点・乳中尿素・体細胞数・細菌数)の受託に係る配分検査を生産者バルククーラー単位に月2回、年24回実施しました。

乳質検査結果について、3年度の年間加重平均では脂肪分率3.92%・無脂乳固形分率8.83%でした。直近の5年間で比較しますと最も高い乳成分になりました。

体細胞数について20.7万/mlと昨年度(21.5万/ml)より減少しています。過去5年間と同等の数値を維持しています。昨年の気候は、お盆後に涼しくなり猛暑期間が短く搾乳牛にかかるストレスが軽減され高品質の生乳生産につながりました。

細菌数の平均値は2.5万/mlとなり、前年度(3.1万/ml)より減少し高いレベルでの衛生的乳質を維持しました。これを前年度とのペナルティバルクの発生率で比較すると、2年度0.5%・3年度0.4%となり0.1%減少と小幅ですが改善しています。また、ペナルティ乳量の発生率は2年度0.3%・3年度0.2%で前年度より0.1%減少しています。

氷点の検査は、3年度もバルク乳での検査を実施し、改善が必要な生産者については会員へ指導と報告を

表7-1

年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度
脂肪分率	3.89%	3.88%	3.88%	3.90%	3.92%
無脂乳固形分率	8.80%	8.78%	8.78%	8.82%	8.83%
全固形分率	12.69%	12.66%	12.66%	12.72%	12.75%
体細胞数	21.3万	21.3万	22.1万	21.5万	20.7万
細菌数	2.9万	2.9万	2.8万	3.1万	2.5万
氷点-0.510℃を超えるバルクの比率	0.8%	0.6%	0.9%	0.7%	0.4%

要請しました。本会が定める氷点の基準外のバルククーラーの割合については0.4%となり2年度0.7%より減少しました。

過去5年間の乳質等の推移は表7-1のとおりです。

(2) 生乳検査本数

配分格付検査は酪農家戸数の減少により前年比94.5%。乳用牛群検定検査は、生乳生産基盤強化により飼養頭数が増加し、前年比100.8%となりました。依頼検査は前年比99.8%、生乳取引検査は前年比100.3%、生産者指導のための指導検査は前年比102.5%、PAGs検査は前年比109.2%となり、検査総本数実績は計画比101.4%、前年比100.5%となりました。

乳業者との成分取引に係る検査については福岡・佐賀・熊本・大分・鹿児島について実施し、乳代請求に利用されました。

依頼検査は生産者からの依頼に応じて、指導検査は会員等からの依頼に応じて実施しました。

検査内容と実績本数については表7-2、検査種別・機器別の検査本数は表7-3のとおりです。

表7-2 (単位:本)

内容	年間計画	R3年実績	R2年実績	計画比	前年比
配分細菌検査	29,040	28,340	29,980	97.6%	94.5%
配分成分検査	29,040	28,340	29,980	97.6%	94.5%
牛群検定検査	949,000	964,841	957,080	101.7%	100.8%
依頼検査	20,200	20,121	20,163	99.6%	99.8%
PAGs検査	4,700	5,043	4,617	107.3%	109.2%
取引検査	47,000	48,064	47,898	102.3%	100.3%
配分再検査	1,400	1,170	1,294	83.6%	90.4%
指導検査	6,500	6,712	6,547	103.3%	102.5%
総検査本数	1,086,880	1,102,631	1,097,559	101.4%	100.5%

表7-3 上段:本数 下段:前年比

検査種別	コンビフォス	バクトスキャン	PAGs検査
配分検査	28,340 94.5%	28,340 94.5%	— —
牛群検定検査	964,841 100.8%	— —	— —
依頼検査	17,781 97.9%	2,340 117.4%	5,043 109.2%
取引検査	48,064 100.3%	— —	— —
配分再検査	1,112 89.1%	58 126.1%	— —
指導検査	5,386 103.1%	1,326 100.3%	— —
合 計	1,065,524 100.6%	32,064 96.2%	5,043 109.2%

(3) 生乳検査料金

検査料金は受託乳量に対し0.12円/kgを徴収しました。その他の検査料金は乳用牛群検定45円/本、依頼検査は成分・体細胞で100円/本、細菌検査300円/

本、PAGs検査800円/本です。

ペーパーディスク検査用シャーレについては、100円/枚でふくおか県酪農協・長崎県酪連・大分県酪農協に継続して供給しました。

(4) 検査所組織と検査精度

生乳検査所の更なる機能の拡充と充実に努めました。本会は精度管理認証制度において「検査部門」(乳脂肪分率・無脂乳固形分率・体細胞数)及び、「検体採取部門」について認証を受け、年4回実施された外部精度管理に参加しました。結果は全ての項目において許容範囲内の精度を維持していました。3月末時点での全国の検査施設における認証取得状況は表7-4のとおりです。

機器の整備については、修理コストの削減と効率的な検査の実施のため、機器のメンテナンスを熟知した技術職員の養成に努めました。また、検査機器の精度の維持、管理のため自主点検及び整備を定期的に行いました。

表7-4 認証検査機関の分類

分類・地域	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	計
指定団体系	2	2	1	1	1	1	2	1	1	12
大手商系		4	8		3	6	1	1	3	26
中小商系			3				1			4
農プラ	2		1							3
計	4	6	13	1	4	7	4	2	4	45

(5) 検査技術の普及

会員CS職員等の生乳に関する基礎知識の習得、検査技術の確認と向上を図るため、生乳検査技術研修会を10、11月に2回開催し、組合・CS等の職員の他、検査関連の職員、農プラ系乳業の品質管理担当職員など10名の参加がありました。なお、講師は本会生乳検査所職員が行い職員の資質向上の機会と知識の習得にも寄与しました。

(6) 集送乳担当者研修会

集送乳乗務員に対する研修会を3会員に延べ7回実施しました。その他に会員が開催する乳質改善の講習会に職員を派遣し、正確な検体採取と乳質の劣化防止、生乳の風味に関する講習会を行いました。

(7) 生乳の安全・安心の確保

生乳の安全・安心の確保のための九州協議会は、行政や各種指導機関、乳業者と乳業者団体、生乳生産に関連する業者を会員としており、新型コロナの感染防止のため8月にWEBで、また会員の安全・安心担当者会議もWEBで開催しました。

チェックリストの記帳率100%を達成するため「出荷伝票方式」になり9年が経過しましたが、多くの項目において記帳が出来ていない酪農家はなくなり、巡回

検証において6項目全て×の農家数はゼロを達成しました。

各会員が行った重点記帳項目等の巡回検証結果は表7-5のとおりです。

表7-5 重点記帳項目等の記帳状況

6項目全て○の農家	○又は×が混在する農家	6項目全て×の農家
1,108戸	71戸	0戸

Jミルクが実施するポジティブリストに係る管理対象物質検査12物質(動物用医薬品7物質、殺菌用消毒剤・殺虫剤5物質)の結果は、全てのサンプルで基準値以下でしたが、1サンプルで塩素系殺菌・消毒剤のイソシアヌル酸が0.01ppm(残留基準値0.8ppm)検出されました。また、搾乳関連場所以外でDDACとパコマの使用実態があるため、生産者へ注意喚起を行い搾乳器具の殺菌は次亜塩素酸ナトリウムに統一した指導を継続して行いました。

発がん性を持つカビ毒アフラトキシンM1の生乳中への残留規制も平成27年7月に始まり残留の防止について、その啓蒙・周知を図りました。また、Jミルクの依頼により生乳中のアフラトキシンM1検査を11月に2検体(全国15検体)実施し、全てのサンプルで「陰性」となりました。

規格外による生乳の廃棄事故は65件・354トン(前年74件・409トン)発生し、前年より件数・廃棄乳量ともに減少しました。多くの廃棄事故は人為的ミス・点検確認漏れ等であり未然に防止できるものでした。対策として生乳廃棄を減らすために、事故の際には詳細を報告してもらい原因を究明し、会員へ周知徹底を図りました。

(8) 生乳品質共励会の開催

令和3年度生乳品質共励会を令和3年4月1日～令和4年3月31日の対象期間で開催しました。その結果、審査対象農家は1,170戸(大学校、高等学校を含む)で、最高得点は1,200点・平均点は906点(前年比+9点)となりました。上位入賞者は、最優秀賞が第1部 山口直敏氏1,200点(長崎県)・第2部 松谷圭一郎氏1,183点(長崎県)・第3部 (有)限部牧場1,163点(熊本県)となり、その他 優秀賞31名・優良賞(1,000点以上)272名(前年231名)の生産者が受賞されました。

10. 補助事業

本年度は以下の補助事業を行いました。

(1) 生乳生産者需要確保事業	15,528,500円
(2) 国産チーズ生産奨励事業	779,014円
(3) 加工原料乳生産者経営安定対策事業	62,458,178円

11. 酪農乳業産業基盤強化特別対策事業

一般社団法人Jミルクが実施する2021年度酪農乳業産業基盤強化特別対策事業のうち、酪農生産基盤強化総合対策事業を活用した会員に対し、17,526,019円が助成されました。

12. 総務部門

(1) 内部留保の充実

自己資本の強化を図る目的から、令和2年度剰余金のほとんどを任意積立金として内部留保に充て、検査機器更新及び乳代精算システム合理化の資金として積立てを行いました。

(2) 効率的な資金管理

生乳代金の債権管理については、販売部と連携し遅延先との協議を図りながらその減額に努め、財務の健全化に取り組みました。

(3) 新型コロナウイルス感染症への対応

オンラインによる会議、研修会に向けた環境整備を進めるとともに、時差出勤・リモートワークによる職場内接触の低減、検温による健康管理、マスク着用の徹底と手洗い・消毒の励行など、業務が滞らないよう感染の防止に取り組みました。

(4) 新興感染症に対応したBCP(事業継続計画)の策定

新型コロナウイルス感染症の例に漏れず、新興感染症はひとたび発生すると甚大な影響をもたらすことから、その発生と流行を想定した事業継続計画を策定しました。

(5) インボイス制度への対応

令和5年10月から実施されるインボイス制度への対応のため、情報収集や関係先との協議を進めました。

(6) コンプライアンス計画の推進

コンプライアンス遵守の意識付けのため、セルフチェックを実施するとともにフィードバックのための面談を行いました。

(7) 職員の教育研修

改正労働施策総合推進法(パワハラ防止法)の全面適用を踏まえ、外部講師による管理職研修を実施しました。

(8) 情報の提供

年4回「九州生乳販連会報」を発行し、会員、酪農家及び関係団体へ生乳生産状況や販売状況、酪農を取り巻く環境の動向、酪農理解醸成や消費拡大事業など情報の提供を行いました。

貸借対照表

第23年度(令和4年3月31日現在)

(単位:千円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	8,407,308	流動負債	7,868,431
1. 預金	646,611	1. 事業未払金	7,613,764
2. 事業未収金	7,815,293	2. リース債務	8,813
3. 雑資産	9,103	3. 雑負債	245,854
4. 貸倒引当金	△ 63,699	固定負債	49,455
固定資産	140,478	負債の部合計	7,917,886
1. 有形固定資産	41,693	出資金	70,000
2. 無形固定資産	0	利益準備金	140,000
3. 外部出資その他の資産	98,785	特別積立金	10,000
		目的積立金	370,000
		繰越利益剰余金	39,900
		純資産の部合計	629,900
資産の部合計	8,547,786	負債・純資産の部合計	8,547,786

損益計算書

第23年度(令和3年4月1日より令和4年3月31日まで)

(単位:千円)

科目	金額
1 事業総利益	215,574
(1) 販売事業収益	1,244,963
(2) 販売事業費用	1,129,178
販売事業総利益	115,786
(3) 消費拡大事業収入	30,020
(4) 消費拡大事業費用	28,984
消費拡大事業総利益	1,036
(5) 検査事業収益	125,052
(6) 検査事業費用	26,300
検査事業総利益	98,752
(7) 補助事業収益	16,308
(8) 補助事業費用	16,308
補助事業総利益	0
2 事業管理費	176,324
事業利益	39,251
3 事業外収益	8,491
4 事業外費用	3,312
経常利益	44,430
5 特別利益	0
6 特別損失	0
税引前当期純利益	44,430
法人税等合計	12,939
当期純利益	31,491
繰越利益剰余金期首残高	8,409
繰越利益剰余金期末残高	39,900

令和3年度生乳品質共励会について

令和3年度生乳品質共励会の表彰式を新型コロナの感染拡大防止のため、出席者を限定し3年ぶりに開催いたしました。最優秀賞受賞者はこちらの方々です。



下段右より 第2部 松谷圭一郎さん、第1部 山口直敏さん、
熊本県酪連 小池泰隆常務理事(第3部 (有)隈部牧場代理)



第3部 (有)隈部牧場
代表取締役 隈部憲一郎さん

最優秀賞受賞者のコメント

第1部 最優秀賞

山口 直敏さん

今回、自身3度目の最優秀賞をいただき、光栄に思います。

私は、高品質の生乳を生産するため、飼養管理で特に大変苦労しています。九州という温暖な地域で、夏場の高成分の生乳を生産するため努力した結果だと思います。

近年、新型コロナの流行やロシアのウクライナ侵攻等により、飼料の高騰など酪農を取り巻く情勢は大変厳しくなっていますが、今後も一生産者として頑張っていきたいと思っています。

第2部 最優秀賞

松谷 圭一郎さん

今回は、最優秀賞という素晴らしい賞をいただき、身に余る光栄です。

高品質の生乳を維持するため、日頃から人一倍頑張っていますが、まだ知らないことやできないことが多く、勉強する毎日です。逆に言えば、これから更に成長するチャンスがあると思っています。

今後も、努力して真剣に酪農に取り組んでいきたいと思っています。

第3部 最優秀賞

(有)隈部牧場 代表取締役 隈部 憲一郎さん

令和3年度生乳品質共励会で最優秀賞をいただきました、熊本県の(有)隈部牧場です。

酪農始めて、今年で27年目になります。近年、社会情勢が変わり行く中で酪農生活にも影響しています。

しかし、私は酪農に「やりがい」を感じているので、苦難な日々でも「もうちょっとだけ、酪農を続けてみよう」という気持ちで今は頑張っています。

これからも「品質の良い牛乳」を生産して、牛と共に頑張ります。

生乳品質共励会は、開催要領に基づき毎年4月から3月までの1年間を対象に、月2回実施した乳質検査の結果を配点基準により採点し24回の合計点数を1,200点満点で評価しています。

それぞれの審査項目と基準値は、脂肪分率3.8%以上・無脂乳固形分率8.7%以上・細菌数3万以下・体細胞数10万以下・氷点-0.520℃以下という、厳しいものになっています。

去年は、梅雨明け後の猛暑期間が短く冷涼な気候になり、牛体に係るストレスは例年より軽減されました。

今年度は、対象となる1,177バルクの平均点は906点(前年比+9点)となりました。生産乳量階層別に3部門(第1部250ℓ未満 長崎県 山口直敏氏、第2部250ℓ以上500ℓ未満 長崎県 松谷圭一郎氏、第3部500ℓ以上 熊本県 有限会社隈部牧場)の3名に最優秀賞・九州生乳販連会長賞が授与され、その栄誉を称えました。

また、副賞として第1部の山口氏には九州農政局局長賞と(一社)Jミルク会長賞、第2部の松谷圭一郎氏には(一社)中央酪農会議会長賞と全国酪農業協同組合連合会会長賞、第3部の(有)隈部牧場様には(一社)日本乳業協会会長賞と全国農業協同組合連合会会長賞がそれぞれ贈られました。

また、生産規模に関係なく上位31名には優秀賞が授与され、優秀賞受賞記念のステンレスプレートが、1,000点以上を獲得された272名の優良賞受賞者には「2021優良生乳生産管理牧場」のステッカーがそれぞれ贈られました。今回優秀賞の方々は、下記のとおりです。

令和3年度九州生乳販連生乳品質共励会 優秀賞一覧表

番号	県	氏 名	得点	規模別 ランク	表 彰	番号	県	氏 名	得点	規模別 ランク	表 彰
1部	長崎	山 口 直 敏	1,200	1	最優秀賞1	15	宮崎	松 浦 博 俊	1,146	3	優秀賞15
2部	長崎	松 谷 圭 一郎	1,183	2	最優秀賞2	16	大分	竹 村 富 二 男	1,146	2	優秀賞16
3部	熊本	(有) 隈部牧場	1,163	3	最優秀賞3	17	熊本	平 山 将	1,146	2	優秀賞17
1	宮崎	黒 木 英 教	1,190	1	優秀賞1	18	熊本	本 田 真 人	1,144	2	優秀賞18
2	大分	(有) 中川牧場	1,181	2	優秀賞2	19	大分	(有) 田中牧場	1,143	2	優秀賞19
3	宮崎	赤 木 大 介	1,173	2	優秀賞3	20	熊本	森 田 稔	1,143	2	優秀賞20
4	熊本	松 田 信 一	1,170	1	優秀賞4	21	佐賀	古 川 直	1,141	1	優秀賞21
5	熊本	(有) 生山牧場	1,166	2	優秀賞5	22	福岡	秋 吉 信 義	1,140	1	優秀賞22
6	福岡	松 永 慎 也	1,161	2	優秀賞6	23	宮崎	今 山 陽 一	1,137	2	優秀賞23
7	熊本	村 岡 泰 司	1,159	1	優秀賞7	24	長崎	尾 崎 昌 幸	1,136	1	優秀賞24
8	熊本	黒 石 哲 博	1,157	3	優秀賞8	25	福岡	森 下 団 蔵	1,135	2	優秀賞25
9	熊本	神 瀬 幸 和	1,156	1	優秀賞9	26	宮崎	去 川 光 弘	1,133	1	優秀賞26
10	福岡	野 田 貞 治	1,155	3	優秀賞10	27	熊本	(有) 茶 ノ 木	1,130	3	優秀賞27
11	福岡	江 上 正 生	1,152	3	優秀賞11	28	熊本	(有) 櫻井牧場	1,129	3	優秀賞28
12	大分	竹 内 正 敏	1,149	3	優秀賞12	29	福岡	森 田 純 一 郎	1,128	2	優秀賞29
13	熊本	荒 木 和 也	1,148	2	優秀賞13	30	熊本	中 村 竜 郎	1,125	3	優秀賞30
14	熊本	深 水 誠 弥	1,148	1	優秀賞14	31	熊本	古 田 圭 輔	1,125	2	優秀賞31

1部:250ℓ未満 2部:250~500ℓ 3部:500ℓ超

(敬称略)

酪農情勢報告

1. 九州の生乳出荷戸数

令和4年6月の生乳出荷戸数は1,170戸で、令和4年3月時点の1,186戸と比較すると16戸減少しています。

2. 九州の乳用種雌牛飼養頭数と出生頭数

4～6月の23カ月令以下の頭数は前年を上回って推移した一方、24カ月令以上の頭数は前年を下回って推移し、総頭数でも前年を下回った推移となりました(表1)。

表1 乳用種雌牛飼養頭数 (単位:頭)

	4月	5月	6月
23カ月令以下	29,259	29,104	29,035
	増減	667	601
	前年比	102.3%	102.1%
24カ月令以上	74,216	73,952	73,668
	増減	-1,542	-1,405
	前年比	98.0%	98.1%
総頭数	103,475	103,056	102,703
	増減	-875	-804
	前年比	99.2%	99.2%

注:Jミルクホームページより

出生総頭数は、4月は前年を下回った一方、3・5月は前年を上回り、3～5月合計では前年を上回りました。また、その内訳として、乳用種雌は前年を上回り、乳用種雄はほぼ前年並み、交雑種は前年を下回りました(表2)。

表2 出生頭数 (単位:頭)

	3月	4月	5月	累計(3-5月)
総頭数	3,609	2,836	2,535	8,980
	増減	65	-125	175
	前年比	101.8%	95.8%	110.2%
うち、乳用種雌	910	667	550	2,127
	増減	99	46	24
	前年比	112.2%	107.4%	104.6%
うち、乳用種雄	449	329	275	1,053
	増減	-34	-31	76
	前年比	93.0%	91.4%	138.2%
うち、交雑種	1,764	1,302	1,063	4,129
	増減	-48	-223	-7
	前年比	97.4%	85.4%	99.3%

注:Jミルクホームページより

3. 生乳需給

(1) 生乳受託販売数量

4～6月の九州の生乳受託販売数量は前年を下回って推移しました。また、同期間中、都府県は前年を若干

下回った推移となりました。北海道は、4・5月は前年を上回り、6月ではほぼ前年並みとなりました。これらの結果、全国では、4・5月は前年を上回りましたが6月では前年を下回りました。

表3 生乳受託販売数量 (単位: t、%)

	4月	5月	6月	累計(4-6月)
九州	52,375	52,954	48,950	154,278
	前年比	97.8%	97.8%	98.3%
都府県	271,060	277,689	259,037	807,786
	前年比	99.6%	99.3%	99.4%
北海道	347,691	361,848	347,447	1,056,987
	前年比	102.9%	101.7%	100.1%
全国	618,751	639,537	606,485	1,864,773
	前年比	101.5%	100.6%	99.8%

注:中央酪農会議 用途別販売実績(速報)より
注:公共除く。ただし、都府県の内訳として中国のみ公共含む。

(2) 生乳販売状況

前号で春休み期間中の処理不可能乳発生回避について報告していましたが、GWについても、生産者の方々の生乳出荷抑制、乳業者の最大限の処理および全国的な消費拡大の取り組み等により、処理不可能乳の発生は回避されました。

新型コロナウイルスの感染拡大による第6波は3月下旬で一旦落ち着き、まん延防止等重点措置が全国的に解除された後、GWまでは飲用需要が業務用を中心に好調に推移しましたが、その後は需要が停滞し、4～6月の全国の飲用向けは前年を下回り、脱脂粉乳・バター等向けが前年を上回りました。こうした中、九州においては、同期間中の飲用向け、脱脂粉乳・バター等向けがともに前年を下回りました。

表4 用途別販売数量 (単位: t、%)

	用途	4月	5月	6月	累計(4-6月)
九州	飲用(前年比)	34,964 99.3%	37,523 97.4%	37,195 97.8%	109,683 98.2%
	はつ酵乳(前年比)	7,139 100.0%	7,275 99.6%	7,217 95.8%	21,630 98.5%
	脱脂粉乳・バター等(前年比)	7,568 88.4%	5,603 96.5%	2,300 120.6%	15,471 95.1%
	生クリーム(前年比)	2,607 103.1%	2,454 102.1%	2,143 94.4%	7,205 100.0%
	チーズ(前年比)	96 99.1%	98 102.5%	95 99.7%	289 100.4%
全国	飲用(前年比)	255,866 98.4%	271,499 97.0%	273,139 96.0%	800,505 97.1%
	はつ酵乳(前年比)	38,530 98.6%	39,506 97.9%	38,801 96.9%	116,837 97.8%
	脱脂粉乳・バター等(前年比)	178,083 106.0%	178,595 105.1%	149,047 105.3%	505,725 105.5%
	生クリーム(前年比)	108,752 104.1%	109,933 101.4%	107,576 101.8%	326,261 102.4%
	チーズ(前年比)	37,521 98.5%	40,003 108.6%	37,923 105.3%	115,446 104.0%

注:中央酪農会議 用途別販売実績(速報)より
(12ページへ続く)

4. 今後の生乳需給について

新型コロナウイルスの感染拡大と収束の繰り返しのより需要は振り回され、本格的な回復につながっていません。今号を作成している7月下旬において、新型コロナウイルス感染拡大の第7波は爆発的な勢いを見せしており、今後の需要への影響が懸念されます。

一方、飼料・資材等の価格高騰を受けて各乳業者と協議を続けた結果、乳業者との生乳取引価格を11月1日から改定することが決定しました（※詳細は当ページ下部参照）。今後は、乳価改定後に懸念される諸課題について（一社）中央酪農会議や他ブロック指定団体・全国連・乳業者と協議・検討し、乳価改定後の生乳需給均衡が図れるよう取り組んでまいります。

加工原料乳生産者経営安定対策事業に係るお知らせ

1. 独立行政法人農畜産業振興機構より、令和3年度平均取引価格及び令和4年度補填基準価格等について通知がありましたのでお知らせします。

令和3年度においては、平均取引価格(①)が補填基準価格(③)を下回った為、本事業実施要綱第4の6の(8)の規定に基づき、交付対象者に対して補填金が交付されます。交付時期は、本年11月頃を予定しておりますが、正式なご案内は所属組合等を通じて別途ご連絡いたします。

2. 令和4年5月30日開催の令和4年度第2回理事会において決定した、今年度の生産者拠出金単価：加工原料乳1kgあたり0.20円については、独立行政法人農畜産業振興機構に申請し承認されましたので通知します。

① 令和3年度平均取引価格	80.72円/kg
② 令和4年度補填基準価格	82.55円/kg

参考)

③ 令和3年度補填基準価格	83.61円/kg
④ 令和3年度補填金単価	2.31円/kg

* ④ = (③ - ①) × 8/10 (1銭未満四捨五入)

* 上記価格、単価は加工原料乳1kgあたり。

令和4年度生産者拠出金単価(加工原料乳1kgあたり)	0.20円/kg
----------------------------	----------

令和4年度生乳取引交渉について

生乳需給環境は、長引くコロナ禍により現在も厳しい状況となっておりますが、令和4年4月1日より「乳製品在庫削減対策」・「酪農経営改善・需給均衡対策事業(生産抑制対策)」もスタートし、本格的に需給改善に向けて動き出しました。令和4年度が生乳取引交渉に関しては、九州生乳販連も「酪農生産基盤維持・存続にかかる(要請)」(令和4年5月10日付)の文書を大手3社へ発出し、厳しい酪農現場の現状を訴えてきました。

コロナ禍による世界経済の混乱、ロシアのウクライナ侵攻の勃発による石油・穀物等のエネルギー資源の国際的な需給逼迫に加え、これに追い打ちをかけるように、為替市場における円安の進行に伴う輸入原材料の上昇を背景として生産コストは高騰の一途にあります。

これらを背景とした酪農経営収支の悪化と先行き不安は、今後の担い手となる酪農経営者などの生産意欲を削ぎ、ついには経営から脱落する酪農家を現出させています。

このように、待ったがかけられない厳しい酪農家の窮状を訴え、令和4年9月1日からの生乳取引価格の期中値上げを要請してまいりました。

その結果、下記の通り令和4年11月1日より生乳取引価格の期中値上げとなることを報告申し上げます。

- 1 飲用牛乳等向け価格・・・10円/kg
- 2 はつ酵乳等向け価格・・・10円/kg
- 3 学校向給食牛乳向け価格・・・別途協議とさせていただきます。(牛乳協会と協議！)
- 4 クリーム等向け、脱脂粉乳・バター等向け、チーズ向け生乳取引価格については、全国的な情勢を踏まえ、別途協議させていただきます。

九州におきましては、令和4年11月1日生乳取引価格値上げ後も継続する厳しい酪農環境を乗り越えるために、生産者・乳業者が最大限協力して進むことを目指します。

令和4年度販売状況について

用途別生乳販売実績

(単位 数量:t、前年比:%、単価:円/kg)

用 途		4月			5月			6月			第1四半期計		
		数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価
飲用等向け	域内飲用向け	24,013	102.5	114.486	25,040	98.3	114.941	24,959	97.8	115.494	74,012	99.5	114.982
	学校給食向け	2,894	93.3		3,860	100.1		4,625	97.5		11,380	97.2	
	域外飲用向け	8,373	93.3		8,881	93.6		7,891	97.7		25,145	94.7	
	飲用牛乳等向け計	35,280	99.4		37,781	97.3		37,476	97.8		110,538	98.1	
	はっ酵乳等向け	7,119	99.7		7,275	99.6		7,217	95.8		21,611	98.4	
	飲用等向け合計	42,399	99.4		45,056	97.7		44,693	97.4		132,148	98.2	
特定乳製品向け	脱脂粉乳・バター等向け	7,635	88.4	78.813	5,708	97.0	79.395	2,344	121.8	81.826	15,687	95.4	79.618
	クリーム等向け	2,628	103.2		2,483	102.6		2,176	94.9		7,286	100.4	
	チー ズ 向 け	96	99.1		98	102.5		95	99.7		289	100.4	
	特定乳製品向け計	10,359	91.8		8,289	98.7		4,615	107.0		23,263	97.0	
販 売 乳 量 合 計		52,758	97.8	107.482	53,345	97.9	109.418	49,308	98.3	112.342	155,411	98.0	109.689

支払乳代

(単位 金額:千円、単価:円/kg)

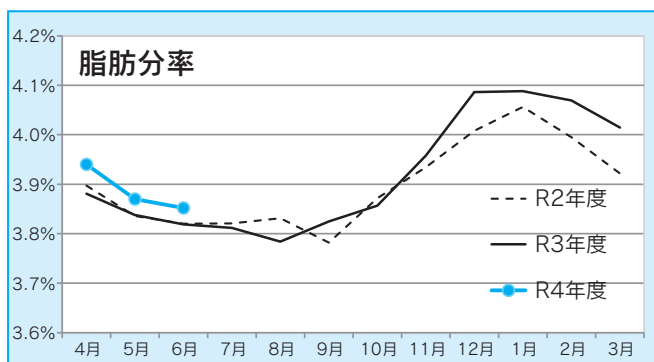
項 目	4月		5月		6月		第1四半期計	
	金 額	単価	金 額	単価	金 額	単価	金 額	単価
基 本 乳 代 ①	5,670,530	107.482	5,836,900	109.418	5,539,372	112.342	17,046,801	109.689
脂 肪 分 加 算 金	44,279	0.839	40,398	0.757	35,296	0.716	119,974	0.772
無脂固形分加算金	54,039	1.024	52,808	0.990	45,091	0.914	151,939	0.978
成分加算金計 ②	98,318	1.864	93,207	1.747	80,387	1.630	271,912	1.750
季節別調整率 ③	94%	—	94%	—	100%	—	—	—
季 節 別 調 整 金	-340,232	-6.449	-350,214	-6.565	0	0.000	-690,446	-4.443
調整後乳代 ④=①×③	5,330,298	101.033	5,486,686	102.853	5,539,372	112.342	16,356,356	105.246
販 売 手 数 料	17,307	0.328	17,790	0.333	16,859	0.342	51,956	0.334
生 乳 検 査 料	6,331	0.120	6,401	0.120	5,917	0.120	18,649	0.120
送 乳 経 費	208,366	3.949	215,733	4.044	200,094	4.058	624,193	4.016
需要者負担額(運賃補填)	-2,213	-0.042	-2,735	-0.051	-3,277	-0.066	-8,225	-0.053
C S ・ 冷 却 費	53,403	1.012	54,656	1.025	52,578	1.066	160,637	1.034
集 乳 経 費	121,002	2.294	122,325	2.293	114,697	2.326	358,024	2.304
プ ー ル 費 用 ⑤	404,197	7.661	414,171	7.764	386,868	7.846	1,205,235	7.755
差引乳価 ②+④-⑤	5,024,419	95.235	5,165,722	96.836	5,232,891	106.127	15,423,033	99.240

令和4年度会員別生乳受託販売数量

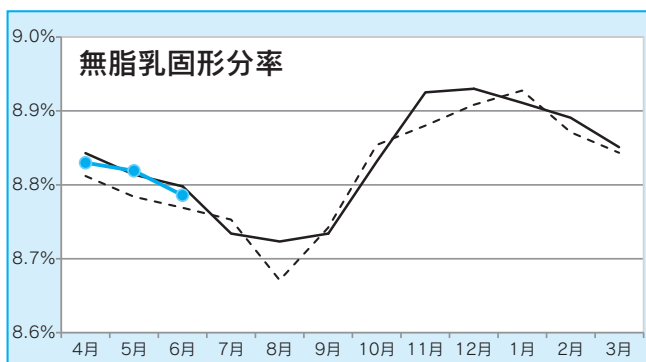
(単位: t、%)

	ふくおか県酪協		佐賀県農協		長崎県酪連		熊本県酪連		大分県酪協		宮崎県経済連		鹿児島県酪協		合 計	
	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比
4月	6,183	96.5	1,254	99.4	3,067	95.5	23,302	100.2	6,118	97.8	6,441	99.4	6,394	90.8	52,758	97.8
5月	6,231	95.1	1,270	98.4	3,129	96.0	23,706	100.5	6,156	96.9	6,496	98.9	6,357	92.1	53,345	97.9
6月	5,751	95.4	1,163	98.0	2,854	96.5	22,129	101.6	5,656	96.2	6,088	100.8	5,668	89.9	49,308	98.3
合 計	18,165	95.7	3,687	98.6	9,049	96.0	69,137	100.7	17,930	97.0	19,025	99.6	18,419	90.9	155,411	98.0

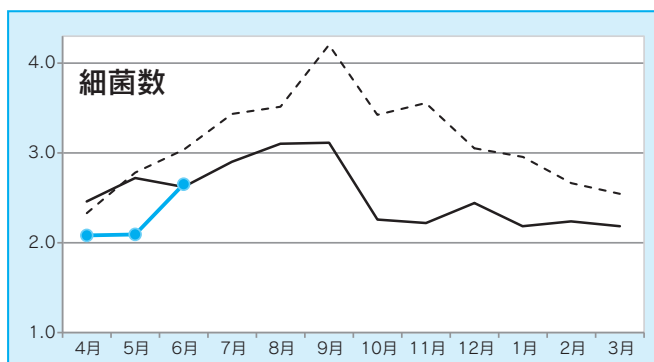
令和4年度 月別受託生乳検査成績



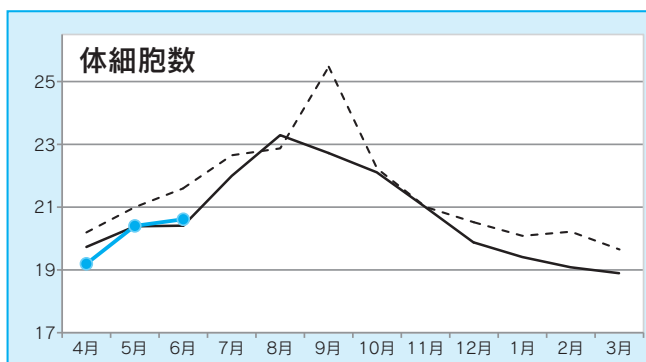
R2年度	3.90%	3.84%	3.82%	3.82%	3.83%	3.78%	3.87%	3.93%	4.01%	4.06%	4.00%	3.92%
R3年度	3.88%	3.84%	3.82%	3.81%	3.78%	3.83%	3.86%	3.96%	4.09%	4.09%	4.07%	4.01%
R4年度	3.94%	3.87%	3.85%									



R2年度	8.81%	8.78%	8.77%	8.75%	8.67%	8.74%	8.85%	8.88%	8.91%	8.93%	8.87%	8.84%
R3年度	8.84%	8.81%	8.80%	8.73%	8.72%	8.73%	8.83%	8.93%	8.93%	8.91%	8.89%	8.85%
R4年度	8.83%	8.82%	8.79%									



R2年度	2.3	2.8	3.0	3.4	3.5	4.2	3.4	3.6	3.1	3.0	2.7	2.5
R3年度	2.5	2.7	2.6	2.9	3.1	3.1	2.3	2.2	2.4	2.2	2.2	2.2
R4年度	2.1	2.1	2.7									



R2年度	20.2	21.0	21.6	22.7	22.9	25.5	22.2	21.0	20.5	20.1	20.2	19.7
R3年度	19.7	20.4	20.4	22.0	23.3	22.7	22.1	21.0	19.9	19.4	19.1	18.9
R4年度	19.2	20.4	20.6									

令和3年度乳用牛繁殖改善事業の実績について

令和2年度から引き続き、生産者に対しPAGs(乳汁中妊娠関連糖蛋白質)検査を実施し、繁殖改善に取り組む生産者に乳用牛繁殖改善事業を実施しました。

令和3年度は、本会検査所および会員施設にPAGs検査を依頼した生産者に対し、1検体あたり4月～5月、12月～3月は200円(税抜)、6月～11月は300円(税抜)を助成し、補助対象検体数は5,893本(前年比105.7%)、助成総額は1,424千円となりました。

(本)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
検体数	480	501	576	423	342	378	339	397	584	588	570	715	5,893	105.7%

6月の牛乳月間に、新型コロナウイルス感染対策を行った上での対面型イベントとSNSを利用したキャンペーンを実施しました。

ハッピーミルクフェスタ2022開催！

6月4日（土）に、福岡県粕屋町のイオンモール福岡にて、長引くコロナ禍にあって牛乳を飲み続けていただいている生活者に酪農家が直接感謝の気持ちを伝えるイベント「ハッピーミルクフェスタ2022」を開催しました。

今回は九州酪農青年女性会議のご協力により九州7県の酪農家にご参加いただき、九州の酪農についてアピールしていただきました。ステージでは、酪農家とMCによる酪農PRタイム、料理研究家を交えた牛乳料理トークショー、親子で楽しめる牛乳クイズ大会を展開しました。また、イベントスペースでは、模擬牛を使用した搾乳・哺乳体験・飼料展示を通じたスタンプラリーやぬり絵コーナー等を実施しました。感染予防の観点から試飲の実施は見送りましたが、参加された方にはLL牛乳とMILKJAPANグッズを配布しました。この他、会場周辺および店内でのリーフレット・ミルメークのサンプリング、牛の着ぐるみの回遊、風船の配布等を実施しました。

多くの家族連れが来場され、酪農家の声に耳を傾けながら、楽しんで九州の酪農・牛乳に触れていただきました。



○牛乳で乾杯！



○牛乳料理トークショー



○搾乳体験



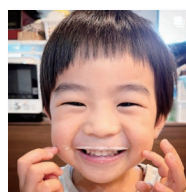
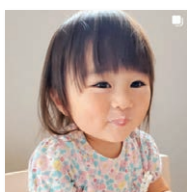
○哺乳体験

#牛乳ヒゲチャレンジ 第3弾を実施しました！

昨年・一昨年に実施した「#牛乳ヒゲチャレンジ」を、第3弾として実施しました。牛乳を飲んでできた牛乳ヒゲの写真を撮り、「#牛乳ヒゲチャレンジ」のハッシュタグをつけてInstagramに投稿していただいた方の中から抽選で30名にLL牛乳1ケース（200ml×24本）をプレゼントしました。

個性あふれる牛乳ヒゲの写真が400件以上投稿され、キャンペーンを楽しみながら牛乳をおいしく飲んでいく様子が見られました。また、投稿の中には写真とともに、「牛乳が大好き！」「毎日飲んでます！」といったコメントも多く、本キャンペーンを通して牛乳を愛飲している生活者の声を聞くことができました。

キャンペーンの内容、投稿写真については本会Instagramアカウントやハッシュタグ等から閲覧することができますので、ぜひご覧ください。



○牛乳ヒゲチャレンジ第3弾の投稿写真

＼ 九販連公式ホームページ・SNSアカウントはこちら！ ／

ホームページ <https://kyuhanren.com/>
Facebook <https://www.facebook.com/kyuhanren/>
Instagram <https://www.instagram.com/kyusulovemilkclub/>
Twitter https://twitter.com/love_milk_club



牛乳・バター利用拡大推進運動について

九州産生乳の安定的な需要維持・拡大を目的として、生活者に「九州産」牛乳・乳製品利用の意識付けを行う牛乳・バター利用拡大推進運動を今年度も実施いたします。総目標数量は令和4年5月の生乳出荷戸数に1戸当たりの目標数量(LL牛乳(24本/ケース)5ケース、バター(30個/ケース)1ケース)を乗じて算出しました。運動期間は令和4年12月～令和5年3月としております(詳細な運動期間は各会員にご確認ください)。皆様の積極的な運動へのご参加、ご協力をよろしくお願いいたします。

会員別目標数量

会員名	出荷戸数 (戸)	LL牛乳 (本)	バター(個)	
			200gの場合	225gの場合
ふくおか県酪協	173	20,760	5,190	4,613
佐賀県農協	37	4,440	1,110	987
長崎県酪連	109	13,080	3,270	2,907
熊本県酪連	436	52,320	13,080	11,627
大分県酪協	80	9,600	2,400	2,133
宮崎県経済連	203	24,360	6,090	5,413
鹿児島県酪協	137	16,440	4,110	3,653
合計	1,175	141,000	35,250	31,333



【熊本県酪連】



【九州乳業㈱】



【南日本酪農㈱】

- ・商品名:九州生まれの牛乳。
- ・種類別:牛乳(常温保存可能品)
- ・原材料名:生乳100%
- ・内容量:200ml
- ・殺菌:【熊本県酪連・九州乳業㈱】140℃ 3秒間
【南日本酪農㈱】140℃ 2秒間
- ・1ケース入り数:24本
- ・保存方法:常温を超えない温度で保存
- ・賞味期限:90日間



【㈱弘乳舎】



【九州乳業㈱】



【南日本酪農㈱】

- ・商品名:九州生まれのバター
- ・種類別:バター
- ・原材料名:生乳・食塩
- ・内容量:【㈱弘乳舎・南日本酪農㈱】200g
【九州乳業㈱】225g
- ・中箱入り数:【㈱弘乳舎・南日本酪農㈱】200g×6個
【九州乳業㈱】225g×6個
- ・1ケース入り数:中箱×5個
- ・保存方法:【㈱弘乳舎】-18℃以下で冷凍保存
【九州乳業㈱・南日本酪農㈱】10℃以下で冷蔵保存
- ・賞味期限:【㈱弘乳舎】冷凍で3年
【九州乳業㈱・南日本酪農㈱】冷蔵で6カ月

酪農教育ファーム認証牧場・ファシリテーター新規募集中!

酪農教育ファームとは、全国の酪農家および関係者が牧場や学校などで主に教育関係者と連携しながら行う酪農理解醸成活動です。令和4年度は、九州地域で32戸の認証牧場と60名のファシリテーターが、子ども達に「食やしごと、いのちの大切さを伝える」ことを目的に酪農体験活動等を行っております。昨年度までは、新型コロナウイルスの影響で活動ができませんでしたが、今年度からは徐々に再開させていただきます。

募集についての詳細は所属組合または県連へお問い合わせください。

